

平成26年度 第6回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成27年3月26日(木)
午前11時～午後0時06分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

議題

(1) 市長への提言書提出

会長から市長へ提言書を提出した。

(2) 市長との意見交換

- 事務局から提言の骨子を資料により説明。
- 会長から次のとおり総括説明をした。
 - ・ 市民とのコミュニケーション不足を感じる。市長への手紙以外のチャンネルが必要。
 - ・ 職員の適材適所を進めてほしい。
 - ・ 市民と一緒に研修を行い、職員の意識向上を図るべき。
- 市長は提言に対するお礼のほか、次のとおり意見を述べた。
 - ・ 地域円卓会議の提唱があったが、これまで地域懇談会や出前講座などを実施している。これでは足りないという意見と認識した。
 - ・ 公務員は「適所適材」にならないといけない。最近の職員は法律の勉強が疎かになっており、知識不足を感じる。
 - ・ 外部で行われる講演会などに、自分から参加するという意識が必要と感じている。
- 委員の意見は、次のとおり。
 - ・ 要約せずに直接聞く行為を大切にしてほしい。
 - ・ 法の正義と市民の正義との間で葛藤が生じることがある。職員には市民のニーズを把握することを第一義としてほしい。ニーズを実現するために法律を活用してほしい。
 - ・ この会議でモデル事業を実施し、保育園のおやつ提供カリキュラムを作成するなど児童課と協働で食育を推進してきたが、児童課からは今年度で終了するとの連絡があった。職員は人事異動があり、事業を継続させていくことの難しさを実感するとともに、今後保育園でどのように実施されていくのか見守っていきたいと考えている。
 - ・ 年寄りと子どもが楽しく暮らすまちを目指すべき。
 - ・ 自分が伝えたことが次代に継承されていくまち（無限の樹形図）を目指し、「自分と社会」ではなく「自分の社会」ととらえることができる職員を育ててほしい。
 - ・ 若者にまちづくりへの関わりを持たせたい。
 - ・ 市民も勉強していないと思う。若い母親向けのセミナーなどを企画するが、真面目な内容だと人が集まらない。市民の文化レベルが低下しているように感じる。
 - ・ 元気な高齢者が増えており、高齢者が活躍できる制度があるとよい。

- ・ 協働のまちづくりは非常に重要だと思っている。10年、20年後のため人材育成に力を入れてほしい。財政面でも充実させてほしい。
- ・ これまでに協働を経験した人達のスキルが再度生かせる場、役割が必要。
- ・ 今後ますます中間支援組織が果たすべき役割が高まっていくと思う。市は財政面でバックアップし、中間支援組織が全体の把握ができるように人員体制を整備する必要性を理解してほしい。
- ・ 協働のまちづくりは「舞台づくり」だと思う。市民がやりたいことをどう作っていくか。
- ・ 今回初めて市長との意見交換の場を設けていただき、非常に有意義であったと思う。今後も定期的に意見交換の場を設けていただきたい。
- 最後に、市長は次のとおり意見を述べた。
 - ・ 委員が一生懸命に取り組んでいただけてきたことを初めて知ることができた。
 - ・ 各種事業で協働のまちづくりをもっとPRしてほしいという思いを抱いた。
 - ・ 市が「舞台」を用意し続けることは難しい。将来的には行政の支援なしで自らの力で市民活動を継続してもらいたい。
 - ・ 協働のまちづくりを進めていくことは大切で、委員には引き続きご尽力いただきたい。
 - ・ 一度担当職員の考えを聞き、ボトムアップで対応していきたい。

(3) 今後の協働まちづくり会議の運営について

- 市長退席後、会議を再開した。
- 会長は、本日の提言の内容を踏まえて、具体的な検討を次期委員に申し送りすることを提案し、委員は了承した。
- 事務局から、現在次期委員の公募選定中であり、次回会議は新委員で5月に開催したいことを説明し、5月17日（日）開催予定の平成26年度助成金実績報告会への参加を依頼した。

会議欠席者：小田泰久委員、伊藤承章委員